

第2回 伊丹市総合計画審議会部会（第1部会） 議事概要

開催日時	令和元年11月1日（金）午前10時00分～12時00分
開催場所	伊丹市役所議会棟3階 第2委員会室
出席者	直田委員、加賀委員、植木委員、坂本委員、徐委員、辻委員、木村委員 上田委員、宮脇委員、西濱委員
欠席者	榎木委員、寺坂委員
事務局	総合政策部長・政策室長 他3名
傍聴者	0名
議題(案件)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 議題 (1) 第6次伊丹市総合計画 基本計画の検討 3. その他 4. 閉会
資料	資料① 伊丹市総合計画基本計画（素案）

議 事 の 経 過	
発言者	発言の内容
	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・録音の確認 ・資料確認 ・委員総数 12 名のうち 10 名が出席しており、本会議が成立していることを確認。 ・会議録の署名委員が辻委員と西濱委員であることを確認。 ・傍聴が 0 名であることを確認。
	<p>2 議題 第 6 次伊丹市総合計画 基本計画の検討</p>
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・個別事業をイメージしながら、取り組みの方向性を中心に議論していただきたい。現状と課題が明確になるほど、施策の方向性が定まる。 (事務局より資料①について説明)
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・本部会では施策 1、施策 4、施策 5 について議論を行う。いずれの項目でも構わないので意見を頂きたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に、将来性や 10 年以上先の未来を見据えた内容があっても良いのではないか。 ・施策 1-1 の方向性として、自助、共助に向けた連携の大切さや、防災に関する意識だけではなく、行動に移すきっかけなどについて記載しても良いのではないか。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画は 8 年間という時間軸の中で、社会情勢がどのように変化するか見えない部分もあり、そのような意味で現状を押さえながら将来のまちづくりの方向を記述していると理解している。啓発だけではなく、実際の行動へつなげることを強調することは大切である。 ・基本方針（目指すまちの姿）はシンプルだが大切な内容であり、これに基づいて施策の方向性が打ち出されている。取り組みの方向性を踏まえて具体的な事業について実施計画に記載していくことになる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域は高齢化している上、地域活動に携わる人は減少傾向にある。例えば、民生・児童委員は欠員が続いており、補充ができていない。 ・施設へ入って戻ってこない人もあり、空き家が増えてきている。空き家管理の苦情もあるが、個人では対処できないため行政に頼らざるを得ない状況だ。本来は市民の力が必要だが、もどかしい。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・人手不足は重要なポイントだ。防災、福祉、文化、環境など地域に関する施策は人材育成がすべての基本である。しかし、高齢化の進行で人材が工面できない状況が全国的に発生している。人が居ても、80 歳代や 90 歳代の人が多いという状況もある。 ・民生児童委員、自治会、消防団といった仕組みを機能させるためには、若い人に地域活動へ参加してもらう必要がある。そのための戦略や環境づくりが求められている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・人口増加や財政経営の方向性によって、文章の書き方が変わる。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・4-2「都市ブランド」は、伊丹市が良好な住宅都市であることを強調しても良いのではないかと。加えて、地盤が固いので、構造物の基礎工事費が安いことも伊丹市の強みである。 ・また、山と海が無いので、高潮や津波、土石流発生の要因が少ないことは伊丹のブランドであると考えている。 ・4-4「商工業」は、阪急伊丹駅西側も含む三軒寺広場より西側の中心市街地についても、商業の中心地として育てるのであれば、良好な景観形成を図る必要があるのではないかと。中心市街地の道路整備やイベント助成等を行っているのであれば、景観規制を行うことについて伝わるのではないかと。路線商業者に対しても説明できるようになる。 ・4-5「都市農業」は、生産緑地の活用について、街路事業による整備や区画整理、地区計画の整備についても検討するべきではないかと。 ・4-7「空港との共生」は、現計画では国際線について言及されていない。国際線の運航について市民の総意はとれているのか。安全性と環境性は同じであるとの説明は、言い過ぎではないかと。 ・関西国際空港の支援を目的に開始された規制であるが、現状ではインバウンドの効果もあり、利用者数は増加し、年間発着回数は環境アセスメントの上限値に近づいている。このような現状を踏まえ、規制緩和の必要性について次期総合計画には記載したいと考えている。 ・国内線も国際線と同じ機材が飛行するため、安全性も環境面も同じと捉えている。
委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・国際線が就航した際に、税関など安全面についてはいかがか。 ・今現在もチャーター便など一部の国際線が認められており、その際は臨時で税関をはじめとする出入国審査（CIQ）機能を設けている。ターミナル改修に併せて税関の場所を確保しており問題は無い。
委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・10市協との関係は大丈夫か。 ・10市協では、国際チャーター便の規制緩和については一致している。地元住民の中で賛否両論はある。
部会長 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の理解を得るための活動はいかがか。 ・大阪国際空港は広域的な施設なので地域資源ではない。公平性と、立場が弱い人にも配慮し、国際線に関係機関へ求めていく前段階の手順として、市民の理解が得られるよう、丁寧に説明していく必要があることを文章に反映していただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・伊丹市の施策をPRするリーフレット「夢まちプラン」にも、国際線就航に向けた取り組みをこれまでも記載している。市民から頂く声として、近年は修学旅行で海外へ行くことも多く、利便性を求める声が圧倒的に多くなっていると感じている。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・市民への理解を促進する旨を記載することでいかがか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地の規制について説明をお願いしたい。 ・三軒寺前広場から酒蔵通りは景観規制がかかっている。阪急伊丹駅東側の都

委員	<p>市計画道路の拡幅や再開発については具体的な動きはない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 東商店街の再開発は立ち消えになったと聞いている。建物が建設された際に景観指導を行うことが大切である。
部会長 委員	<ul style="list-style-type: none"> 都市景観の形成は、伊丹の都市ブランドを維持していく上で大切である。 景観については、新伊丹駅周辺の住宅の建て替えが進んでおり、新伊丹駅周辺のローズレーを含む景観が維持されるのか不安である。 空港については、地域はあまりよくわかっていない状態ではないか。はっきり伝える部分は、聞かせてもらわなければならないことかと思う。 人あってこそその取り組みなので、人口減少社会を考えると、数の面で圧倒的に人の確保が難しくなることを前提に、考えていかなければならない。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> 公共空間の良好な景観形成は、5-4「都市計画・住環境」の取り組みの方向性に記載されている。個人の住宅については個人財産だが、啓発されると良い。 市民側から良い景観を顕彰したり、PRしていく活動が出てくると良いと思う。吹田市や箕面市ではそのようなことが行われている。景観協定は地権者の合意が必要なので難しいが、そのような動きに対して支援する施策があっても良いのではないかと。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 市内は猪名川、武庫川、天神川、天王寺川がある。大規模豪雨に備えて、下水道のインフラ整備が必要ではないか。 都市農業について、JAや農家と連携して、市内の農地を残していく方法を考える必要がある。都市農地相談センターでは、事業の継承等に関する情報が集まっており、相談などの支援を行っており、バックアップを市に対してもお願いしたいと考えている。都市農地連絡協議会ができて、良好な農地を守る動きが活発になっている。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> 水害だけではなく、風害についても考慮する必要がある。 4-5「都市農業」は、生産緑地制度について言及するとともに、取り組みの項目で、協力機関としてJAなど具体的な名称を盛り込んでも良い。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 1-1「地震・風水害対策」について、民間事業者との連携を考えていただきたい。例えば、伊丹市建設業協会に加入している団体数が少ないのは、加入するメリットが無いからである。他市のように入札制度に優遇策を取り入れるなど、将来の見通しが立つ制度を設けていただきたい。 1-3「交通安全・地域防犯」では、子どものための自転車の防犯意識を高めるような施策を取り入れるべきだ。 テーマパーク型空港という形で注目を浴びている新千歳空港を参考に、市民と連携してこれまでの空港にはない発想で空港の在り方を考えていく必要がある。リニア新幹線が開通すると羽田～伊丹便は需要がほぼ無くなるという指摘もある。伊丹空港がブランド化できる資源となれば、市、市民にとっても良いのではないかと考える。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> 一般的な交通安全はもとより、年少の子どもなど弱い人を対象にするという事は強調していただければと思う。 総合計画の計画時期は8年間であるため、リニア新幹線は今の段階で考えら

委員	<p>れるものではない。しかし、開通が近くなると空港の在り方が変わる可能性があるので、念頭に置いて施策に取り組む必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1-1「地震・風水害等対策」で、公共施設の統廃合や改修に当たっては、災害時の避難所として活用できることを考慮していただきたい。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4-1「市民活動支援」は、様々な形で市民活動に携わっている人が多い中で、横のネットワークが少ない。情報共有や連携など、ネットワークづくりに市として携わっていただきたい。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共施設を避難所にする際は、統廃合や将来的な在り方を含めて検討していく必要がある。 ・ 災害時に対応できる人が少なくなっている中で、行政職員だけではなく地域住民、NPO、ボランティアといった人が協働の仕組みをもって携わることができる仕組みが必要である。 ・ 市民活動支援の情報ネットワークは、市民まちづくりプラザを中心に自治会や地域自治組織を含めて各種団体が繋がることのできる仕組みが求められている。 ・ 市民まちづくりプラザの役割にネットワークというキーワードがあるので、それを計画に盛り込んでも良い。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1-1「地震・風水害等対策」は、日頃から防災に備え、市民と民間事業者、関係機関が連携することが求められている。例えば公民館が使用できなくなった際に企業の防災倉庫を代替施設としておくことなど、しっかりとした体制を構築する必要がある。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1-1「地震・風水害等対策」は、自助と共助だけではなく、公助がベースとなる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4-1「市民活動支援」は、地域課題の解決の中には発災前の対応や見守りなど災害に関連する活動も含まれる。市民活動がどの分野に関係するのか、関係図のようなもので表現できないか。その上で、強化や補強の方策をとっていただきたい。 ・ 「都市ブランド」という言葉が出てくるが、「都市の魅力」という言葉も、取組の方向性として挙げて良いのではないか。地域資源を活性化して、市民が認知をすることで、具体的施策に繋げていくことができる。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4-4「商工業」では新産業づくりについて言及が必要ではないか。起業家やイノベーター、暮らしやすいサービスなどの視点も大切である。 ・ 全国的な傾向として事業継承が課題であり、それに対して言及する必要がある。 ・ 5-4「都市計画・住環境」の現状と課題において、空き家に関して記載されているが、取組みの方向性についても言及する必要がある。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施策相互の関連性を見やすくしたマップのようなものができたら面白い。防災や市民活動支援など、相互に関連する施策は多い。関連キーワードや関連施策の欄を設けることも一案である。 ・ 都市ブランドの施策だけを打ってもあまり効果は無く、住環境や地域のイベ

事務局	<p>ント、災害に対する安全性などがさまざま結びついた結果、ブランド力が向上する。そのような視点が大切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新産業への転換を考えられる余裕が中小企業にはない。市として支援できることは多い。事業継承も同様で、産業振興センターなど既存の施設を活用して現状の把握、調査、研究といったことを行っていただきたい。 ・産業情報センターは、来年4月から産業振興センターとして名称を変えて事業を実施する。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・新産業は市民活動やNPOや有償ボランティアと繋がることができる。このような点は都市ブランドとしては大きく、整備されていれば移住する人も増えて来るだろう。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関という単語が出てくるが、これは文脈によって意味するものが異なっている。行政用語のような表現になっているため、警察等関係機関といった形で具体的に記載すべきである。 ・相関図的な話の中で、施策ごとに部分最適のことを考えて記載している。それぞれの施策のウェイトにも差があるという視点も必要ではないか。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・他市との状況を比較しての良し悪しまでを記載する必要はないが、市の方向性として関係することは抽象的に盛り込むことも有効だろう。相互関係に言及することは新しい総合計画の在り方の一つと考える。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・伊丹市は尼崎や大阪、川西、宝塚といった都市と関係が深いので、都市間協調の視点をもって施策を展開するべきではないか。職員の資質向上を図るために、職員の交換制度も有効な手段の一つと考える。 ・計画には、いまの伊丹がどのような都市なのかうまく表現できていない。もう少し都市像を明確にする必要があるのではないか。 ・日本語では社会関係資本と呼ぶ、ソーシャルキャピタルという単語がある。郷町屋台村やグリーンジャムなどに携わる商業者やリーダーを見て、他都市から移住して商売を始める人もいる。ソーシャルキャピタルが育っているので、これを伸ばせば、都市の魅力が増大し、人口増加につながる可能性がある。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・都市間協調、都市連携は重要な視点である。職員の交換制度は、6-3「人材育成」で検討されることを期待している。 ・ソーシャルキャピタルは社会の中でのネットワークや信頼大きく関わっており、このような繋がりや信頼感の厚みというのは都市のあり方として魅力的で、基本構想の将来像や現在の姿の欄に書くことができればインパクトが出てくるかもしれない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・居住地として選択する人は、住宅価格の安さだけではなく、当地に住むこと自体が良さを感じることができる。北摂のような、良好な住宅地として魅力があると言われているところは、魅力が維持されている。 ・横断的に複数自治体で取り組むような施策もある。自治体それぞれの良さを引き出していただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・4-1「市民活動支援」について、登校時の旗当番は親が行っており、児童を見

<p>部会長</p>	<p>守っているが、ボランティアなので万が一のことがあっても責任を取ることができない。自治会の人との積極的な協力も得ることができない。問題点として考えていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもやお年寄りの見守りを、学校や行政に丸投げすることはできない。お互いに助け合って行う仕組みが必要だ。 ・自治会では毎回同じ人に集中するのが大変ならば、エリアの広い地域自治組織の中に、多様な有志で見守り部会のようなものを作って幅広く活動することも方法の一つではないか。 ・交差点にポールを建てるなど、ハード整備で解決できるものがあればそれはそれで必要なことである。 ・市民活動でも、専門的に活動するときなど、責任の取り方についてリスクが生じ、活動に支障が出る場合がある。今後の社会的な課題として認識しておく必要がある。 <p>3 その他 (なし)</p>
<p>事務局</p>	<p>4 閉会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長時間に亘りご審議いただき感謝申し上げます。 ・次回は、11月20日水曜日の10時から開催する。万障繰り合わせの上ご出席いただきたい。 <p style="text-align: right;">(終了)</p>